

弘大・弘前市「いきいき健診」

健康づくりへ 結果生かして

弘前大学と弘前市が今年6月に、65～80歳の市民を対象に行った「いきいき健診」の結果説明会が31日、弘前市のヒロロに
ある市民文化交流館で開かれ、健診受診者が数値の見方や、今後の健康づくりへの生かし方を学んだ。（西尾瑛）



医師が 説明会 受診者、 熱心に相談

同健診は、認知機能を含む全身の健康状態について150項目近い詳細な分析を行うもので、隔年で10年間、継続して行う。来年度実施分と合わせ、計約2500人を調査する予定。

31日の説明会では全体講話として、泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科、整形外科、歯科の各分野の医師が特に気を付けるべき症状や予防法を紹介。内科を含めた総括説明を行った弘前大学大学院医学研究科社会医学講座の中路重之教授は、動脈硬化を判断するポイントや、さまざまな病気のリスクを高める糖尿病を判断する項目や数値を説明した。

受診者
健診結果の見方についての説明に耳を傾ける

木橋真理子さん（66）は「分かりやすく説明してもらえて参加して良かった。健診は1年ごとにと続けて受けられるので、健康づくりに役立つと思う」と話した。

終了後は各科ごとに医師が個別の相談に応じ、参加者が診断結果を手に各ブースを回り、気になる点について熱心に質問していた。夫婦で参加した八